

あなたに贈る健康へのメッセージ —— 知ってください病院のこと、身体のこと

2017
第23巻 第2号
秋

医科大どおり

CONTENTS

- リハビリテーションセンター紹介
- 研修医・指導医紹介
- 病院中央棟総合受付周辺のご案内
- はじめまして
- 案内コンシェルジュ紹介・テナント紹介
- 私の好きな風景
- 病棟紹介（病院1号棟4階東病棟）
- 医科大Q&A
- お知らせ



金沢医科大学病院外観

病院の理念

私たちは「生命への畏敬」を医療活動の原点として
次のような病院を目指します

- 患者さん中心の安全で質の高い医療を提供します。
- 人間性豊かで有能な医療人を育成します。
- 新しい医療の研究・開発を推進します。
- 地域の医療機関と協力し地域の医療福祉の向上に貢献します。

医科大どおり

2017年 季刊誌 第23巻 第2号 発行/金沢医科大学病院

編集/金沢医科大学病院二コー入編集委員会

はじめまして!!

一度経験したからこそ分かる陣痛に不安を感じつつも、迎えた予定日。病院に着いて30分強でのスピード出産に拍子抜け。まさに、案ずるより産むが易しでした。しかし、1人目の時はすんなり始められた授乳が、今回は一向に張る気配もなく、心配になりました。搾乳しても雀の涙ほどのお乳にめげそうになりましたが、助産師さんの熱心なアドバイスにより徐々に量も増え、授乳後に初めて赤ちゃんの体重が増えた時は本当に嬉しく思いました。お世話になった皆さまに感謝し、これからの子育てを楽しみたいと思います。



中村さま

- おとうさん 祐太さま
- おかあさん 麻里さま
- 赤ちゃん 光里(ひかり)ちゃん
平成29年8月21日生
3,428g 女の子

私の好きな風景

雨上がりの早い朝、内灘海岸方面に美しく大きな虹が出現した。



撮影:出版メディア課 中谷 渉

病院運営の基本方針

1. 患者さん中心の病院運営を行います。
2. 安全で信頼される医療の提供に最善を尽くします。
3. 患者さん・ご家族への「説明と同意」を徹底します。
4. 高度先進医療、質の高いチーム医療を推進します。
5. 地域の中核医療機関として地域医療連携・支援を推進します。
6. 良医の育成と医療人の教育・研修を推進します。
7. 働き甲斐のある健全で活力ある病院づくりに努めます。

患者さんの権利

- 当院は、医療の中心は患者さんであると認識し、患者さんには次のような権利があることを宣言します。
- 人間としての尊厳や人権が尊重され、安全で良質な医療を公平に受けることができます。
 - 病気や治療内容について、分かりやすい言葉で説明を受け、ご自分の希望や意見を述べるすることができます。
 - 十分な説明と、情報提供を受けたうえで、ご自分の意思で治療方法や医療機関を選択することができます。
 - 治療のどの段階においてもセカンドオピニオン（他の医療機関の医師の意見）を求めることができます。
 - 診療記録の開示を求めることができます。
 - プライバシーは尊重され、個人情報は厳重に保護されます。
 - 臨床研究に関して十分な説明を受けたうえで、その研究に参加するかどうかご自分の意思で決定できます。また、いつでも参加を取り消すことができます。

患者さんへのお願い

- 当院は、大学病院としての社会的使命を果たすため、様々な医療を提供しています。患者さんには、次のことをご理解いただき適切な医療を行うためご協力くださいますようお願いいたします。
- 健康状態、その他必要なことを可能な限り正確にお話してください。
 - 説明を受けてもよく理解できない場合は納得できるまでお聞きください。
 - 治療を受ける場合は、医療スタッフの指示に基づき療養してください。
 - 病院のルールを守り、他の患者さんの迷惑にならないようご配慮ください。
 - 当院は教育・研修施設として医学生・看護学生等の臨床教育実習を行っておりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

お答えします！医科大Q&A

Q 先日外来受診時に主治医のそばでパソコンを操作している事務員の方を見かけたのですが、どのような職種の方ですか。また、業務内容を教えて下さい。

A ご質問いただいた事務員は「医師事務作業補助者」といいます。医師の業務負担を少しでも軽減するために、医師が行う様々な業務の中で、国の認可のもとで事務的な業務のサポートを医師の指示と確認のうえで行っています。主な業務は、診断書などの医療文書の作成補助や電子カルテの入力補助、病気や手術の症例登録ですが、行政機関に報告する為の資料作成やデータの整理など多岐にわたり、守秘義務を守り業務を行っています。（記:病院事務部 診療情報担当 副部長 山野 清一）

リハビリテーションセンター紹介

リハビリテーションセンターは、2017年7月に病院中央棟3階に移転しました。前方は河北潟、立山連峰などを一望できる絶好の場所であり、リハビリテーション医療を行うには、患者さんにとって心理面も含み、これまで以上の環境となりました。移転に際し、新たに歩行・動作分析が可能な三次元動作解析機器の導入や自宅の和室を想定した日常生活活動（ADL）の部屋等が設けられ、術後の客観的治療効果判定



リハビリテーションセンター



三次元動作解析

評価や退院前の自宅復帰率、生活の質（QOL）の向上に寄与できると考えています。このように広々とした空間において、当センターのスタッフはリハビリテーション科常勤医師4名、理学療法士34名、作業療法士16名、言語聴覚士7名の計61名となりました。急性期病棟では、すべての病棟に病棟担当療法士を配置し、早期歩行、ADL自立獲得による入院期間の短縮に努めています。また、カンファレンス等を通してチーム医療の促進、一般病棟から回復期リハビリテーション病棟への適切かつスムーズな移動を支援しています。

一方、回復期リハビリテーション病棟では、スタッフを14名

配置しています。急性期から回復期、そして家屋の評価を通じて自宅復帰後の生活期での心身機能の維持、向上のため地域のケアマネージャー等とも連携し、地域医療の中核病院として奥能登地域までを含む医療、介護のスムーズな連携が図れるように努めています。



日常生活活動(ADL室)



リハビリテーションセンタースタッフ

(記：リハビリテーションセンター副部長(技師長) 神戸 晃男)

病院中央棟総合受付周辺のご案内

2017年7月18日(火)より病院中央棟に移動しました。総合受付周辺についてご紹介いたします。

病院中央棟

1 **総合案内**
受診に関するご相談をこちらでお受けしております。病室案内もこちらです。

2 **紹介・新患・初診・再来受付**
紹介状をお持ちの方、予約のない方はこちらで受付をして下さい。

3 **自動再来受付機**
予約のある方はこちらで受付をして下さい。

4 **計算窓口**
診療終了後、こちらにファイルをお出し下さい。計算いたします。

5 **支払窓口**
計算窓口にて会計番号をお渡しいたします。会計番号表示盤に番号表示後、ご精算下さい。(現金のみ対応)

6 **診療費自動精算機**
お支払いは診療費自動精算機で行う事もできます。(現金・クレジットカード/デビットカード対応)

7 **FAXコーナー**
院外処方箋をご希望の方はこちらから院外薬局へFAXいたします。

8 **薬渡し口**
院内処方箋は、薬渡し口でお渡しいたします。

正面玄関

エレベーター

自動再来受付機

診療費自動精算機

待ちコーナー

授乳室

ATM

入退院予約センター

家族待機室

地下階段

階段

車椅子置き場

案内コンシェルジュ紹介・テナント紹介

案内コンシェルジュの誕生です

2017年7月18日(火)の病院中央棟オープンに合わせて、「患者さんにやさしい環境づくり」をコンセプトに病院所属の事務職員を案内コンシェルジュとして起用し、来院された患者さんやお見舞の方をサポートするために、病院中央棟ロビーに配置しました。

配置されたコンシェルジュは、診察受付や各外来・検査室等の場所を尋ねる方への案内、初めて来院される方への受診手続方法の説明等さまざまな質問に対応します。

ユニホームもこれまでの「病院受付」のイメージを一新、清潔感のある白を基調とし、スカーフで華やかさをプラスしました。病院は苦痛や不安を抱えた方が多く来院される場所です。コンシェルジュがやさしく案内することで患者さんの緊張をほぐし、少しでも不安を和らげ安心して受診していただくために、患者さんの気持ちに寄り添う接遇を心掛けて活動していきます。

(記:医事課(診療支援担当)課長 古府 美知子)



案内コンシェルジュスタッフ

病棟紹介 (病院1号棟4階東病棟)

病院1号棟4階東病棟は師長1名、主任2名、スタッフ21名、看護補助員2名で小児病棟での看護を実践しています。当小児病棟は、小児科、小児外科、小児循環器内科、小児心臓血管外科、形成外科、頭頸部・甲状腺外科など多くの科があります。新生児から学童・思春期のお子さま、小児期から治療を受けていて成人になられた方など幅広い年齢層の様々な病気や健康障害を持った患者さんが入院されます。小児の手術は年間約430件、心臓血管カテーテル検査は約130件実施しており、患者さんに対して、安全・安心に入院生活が送れるように、医療・看護を提供しています。

病棟理念として「小児病棟として高度の医療を提供します」「安全で優しい子どもたちの未来を考えた医療を提供します」を掲げ、入院中のお子さまの不安・緊張を出来るだけ和らげるように、スタッフ一同、心のケアを大切にし、ご家族を支援しています。多職種の活動も多く、心身の機能発達、回復のために積極的に遊びを取り入れたリハビリテーションや病状、成長発達、アレルギー等に配慮したきめ細やかな栄養の管理をしています。また、本学大学生の院内家庭教師による教育支援活動や限られた入院生活の中で季節感が味わえるように、病棟保育士と共に七夕まつりやクリスマス会など季節の行事を行なっています。院外からもホスピタルクラウン(道化師)が2ヶ月に1回パフォーマンスに来られたり、近隣の保育士に1~2ヶ月に1回、もの作りや紙芝居などのボランティア活動として来ていただいております。退院に向けての支援として、ご自宅での療養継続と学校生活継続のため、訪問看護師と地域の学校または支援学校の教員とのカンファレンスも積極的に行なっています。



院内家庭教師

テナント紹介

	1階				地階	
病院中央棟	コーヒーショップ 【ドトールコーヒー】 平日 8:00~20:00 土曜日 8:00~18:00 日・祝 9:00~17:00 	生花店 【ボヌール金子】 平日 9:00~17:30 土日祝 9:00~17:30 	売店 【the 1st.】 平日 8:00~20:00 土曜日 8:00~15:00 祝日 8:00~15:00 定休日 日曜日 	郵便局 【金沢医科大学病院内簡易郵便局】 平日 9:00~16:00 定休日 土・日曜日、祝日 	ヘアサロン 【髪匠】 平日 8:30~17:00 土曜日 8:30~17:00 定休日 日曜日、祝日 	
	病院1号棟	レストラン 【ロンシャン】 平日 9:00~19:00 土曜日 9:00~16:00 日・祝 10:00~16:00 	書店 【うつのみや】 平日 8:30~18:00 土曜日 8:30~17:00 定休日 日曜日、祝日 	売店 【食彩倶楽部】 平日 8:30~18:00 土・日 8:30~17:00 定休日 祝日 	売店 【食彩倶楽部くすりやさん】 平日 8:30~18:00 土・日 8:30~17:00 定休日 祝日 	カフェ 【ラ・メール】 平日 9:00~16:00 定休日 土・日曜日、祝日 

※年末年始、5月連休、開学記念日(6月1日)、旧盆(8月15日)は病院休診のため、上記の営業日時等を変更する場合がありますのでご注意ください。



病棟スタッフ

(記:1号棟4階東病棟 師長 宮下 あき子)

お知らせ

がん患者サロン『やわらぎ』のお知らせ

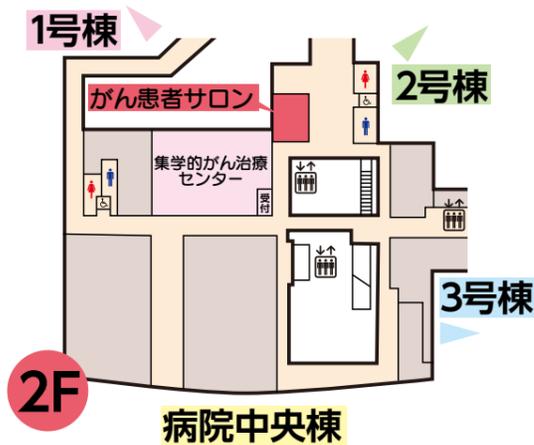
がん患者サロン「やわらぎ」は、がん患者さんご本人とご家族が療養中に生じた不安な気持ちや様々な悩みを同じ経験を持つ方々と語り合い、共に考える事によって、病気への知識や不安や悩みなどをやわらげることを目的とした情報交換の場です。これまでは毎月一回病院の会議室で行われておりましたが、2017年7月に病院中央棟が完成した際に、このがん患者サロン「やわらぎ」が集学的がん治療センターの隣に常設されました。お部屋は、「やわらぎ」の名の通り温かみのあるオレンジ色や木目を基調とし、病院という環境の中で少しでも心がやわらぐようにデザインされております。

この「やわらぎ」は平日13時から15時に開放しており、看護師経験の長いボランティア2名の方々と当院看護師長、がん関連専門・認定看護師が日替わりで常駐しております。がん治療は、ご本人含めご家族も大変負担がかかると思います。療養されていく中で、不安や心配を抱えている方、誰かに相談したいと考えている方は、お気軽にご利用ください。お茶などをご用意してお待ちしております。

さらに今後も、毎月1回（基本第2金曜日の13時から14時）ピアサポーター（がん体験者のサポーター）による催しやミニレクチャー（下記の表）を継続して「やわらぎ」内で行っていく予定です。是非一度お立ち寄りいただけると幸いです。（予約は不要です。）



がん患者サロン



2017年度ミニレクチャー予定表

日程	内容	講師	
2017年	10月13日（金）	麻薬・抗がん剤について	薬剤師
	11月10日（金）	乳がん患者の集い	乳がん体験者
	12月8日（金）	ピアサポーターによる催し	ピアサポーター
2018年	1月12日（金）	がんのリハビリテーションについて	リハセラピスト
	2月9日（金）	大腸がんについて	消化器外科医
	3月9日（金）	ピアサポーターによる催し	ピアサポーター

（記：外来I 主任 我妻 孝則）

研修医・指導医紹介

研修医紹介



1年次初期臨床研修医
野村 和利 (のむら かずとし)
北海道出身

【医師を志したきっかけ】

私が医師を志したきっかけは、内科医として勤務していた父の影響があります。父は遅い時間に帰ってきては、次の日も早い時間に家を出ていて、なかなか顔を合わすことはありませんでした。中学生の頃に父の医師という仕事に対する考えを聞いた時に、「こんな最高の仕事はない。自分が頑張れば頑張るだけ、誰かのためになるのだから」と言われたことを覚えています。それからは学校の委員会に入るなど、人のために働くことの大切さや楽しさを感じながら学生生活を過ごしてきました。私も人のために働きたいと思い、医師を志すことを決めました。

【臨床研修中に印象に残ったエピソード】

研修が始まって早くも半年が経過しました。研修期間中は数ヶ月毎に異なる診療科に異動となるため、病棟での勤務も別の場所になります。担当していた患者さんにその事をお話するのは、毎回申し訳ない気持ちになります。しかし、以前担当した患者さんから、「先生の声聞いて元気をもらっていたのに、いなくなると寂しいわ。でももっと勉強していいお医者さんになってね。」と、言われた時は、本当に嬉しかったです。まだまだ学ばなくてはいけない事がたくさんありますが、日々精進したいと思います。

指導医紹介



肝胆膵内科
湊 貴浩 (みなと たかひろ)
石川県出身

【最近の研修医の指導について感じていること】

現在の臨床研修制度では、ほとんどの研修医が1～2か月毎に様々な診療科に配属されていきます。幅広い知識と技術を経験するには良いことだと思う反面、短期間で指導できる内容には限度があると思います。その中で、私自身が研修医時代に「良かった」と思えたことは同様に経験させてあげたいですし、単に厳しいだけの指導が良いとも思いません。少しでも成長できるように、研修医にはガッツを持って臨んでほしいですし、それに応えるように接していきたいと思っています。

【自分の研修医時代との違い】

私自身にとって研修医時代は、国家試験に合格し医師になった喜びを噛み締めながら過ごした2年間であったように思います。TVドラマのように忙しいことがカッコいいと感じ、夜中に電話で起こされて病院に向かいながら「医者してる！」とっていました。同期の友人と点滴の針を入れる練習もしましたし、そういった点ではあまり違いはないでしょう。私は、知識や技術で同期には絶対負けたくないと思っていましたが、その思いは、同期が多く大学に残るようになった今の研修医のほうが強いかもしれません。